

**製品名: ARK-2 (リン酸化 Tyr12) ウサギポリクローナル抗体**

**カタログ番号: APRab04260**

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	39kDa

## 抗原情報

遺伝子名	AURKB
別名	AURKB; AIK2; AIM1; AIRK2; ARK2; STK1; STK12; STK5; Aurora kinase B; Aurora 1; Aurora- and IPL1-like midbody-associated protein 1; AIM-1; Aurora/IPL1-related kinase 2; ARK-2; Aurora-related kinase 2; STK-1; Serine/threonine-protein kinase 12
遺伝子 ID	9212.0
SwissProt ID	Q96GD4
免疫原	抗血清は、ヒト AurB 由来の Tyr12 リン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

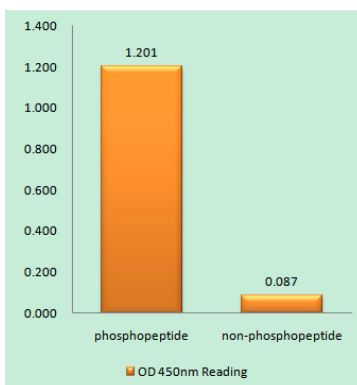
## 背景

この遺伝子は、セリン/スレオニンキナーゼのオーロラキナーゼサブファミリーに属するメンバーをコードします。このサブファミリーの他の2つのメンバーをコードする遺伝子は、19番染色体と20番染色体上に位置しています。これらのキナーゼは、微小管との相互作用を介して、有糸分裂および減数分裂における染色体の配列と分離の制御に関与しています。この遺伝子の偽遺伝子は8番染色体上に位置しています。この遺伝子には、選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが見つっています。 [RefSeq 提供、2015年9月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。疾患: 発現の破壊的制御は、細胞質分裂に対する優性負性効果を通じて、癌細胞における染色体の完全性の混乱の可能性のあるメカニズムです。機能: 極性紡錘体微小管の切断の制御に直接関与している可能性があり、有糸分裂中の細胞質分裂の開始に重要な制御因子です。有糸分裂の重要な制御因子として機能する複合体である染色体パッセンジャー複合体 (CPC) の構成要素です。CPC 複合体は、セントロメアで染色体の正しい整列と分離を確実にする上で重要な機能を持ち、クロマチン誘導性微小管の安定化と紡錘体の組み立てに必要です。有糸分裂中にヒストン H3 の 'Ser-10' と 'Ser-28' をリン酸化します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。Aurora サブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。細胞内局在: 前期から中期にかけて染色体腕と内側セントロメアに局在し、後期から細胞質分裂にかけて紡錘体の中間領域と中間体に移行します。中間体では  $\gamma$  チューブリンと共局在します。サブユニット: TACC1 と相互作用します。M 期に RACGAP1 と会合します。CPC の構成要素で、少なくとも BIRC5/survivin、CDCA8/borealin、INCENP、および AURKB/Aurora-B から構成されます。CDCA1 および NDC80 と相互作用します。EVI5 と相互作用します。脾臓、肺、精巣、結腸、胎盤、胎児肝臓にも発現しています。S 期および G2/M 期に発現し、癌細胞では M 期に発現が上昇します。

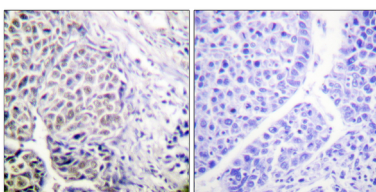
## 研究分野

細胞生物学

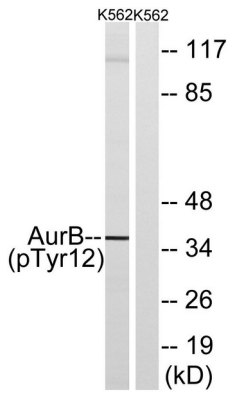
## 画像データ



AurB (リン酸化 Tyr12) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



AurB (リン酸化 Tyr12) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肝癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



AurB (リン酸化 Tyr12) 抗体を用いた K562 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。